

ムサ美に映像学科が開設されて20年が経ちました。
当時多くの美術大学において
類似の学科が開設されたものの、
ムサ美では映画ではなく映像であったことから、
今回は美術における文脈の中で動く映像が
どういう位置づけにあるかを知っていただく
機会になると思われます。

●入場無料

埼玉からアートを考える PART 2

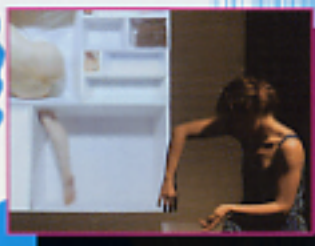
主催＝武蔵野美術大学校友会埼玉支部
後援＝武蔵野美術大学／武蔵野美術大学校友会

ムサ美埼玉2011 記念フォーラム
2011年7月3日(日)午後2:00-4:00

埼玉県立近代美術館 2階講堂

講師：瀧 健太郎(院映像修了)アーティスト

映像メディアにおける身体性 解体と再構成



講演テーマ●

美術における動きや時間性の探求は、
例えばマルセル・デュシャンの
絵画作品「階段を降りる裸婦」が、映像前史である
エドワード・マイブリッジの連続写真に
ヒントにしていることなど、
映像メディアの幕開けとなる20世紀の科学技術の
状況と関係無くしては語れません。
今回は、私たちの身体が現代社会に溢れる
メディアや情報とどう向き合うか、
状況の俯瞰の下、動きと時間の解体と
再構成により制作を続けている瀧健太郎氏が、
ご自身の作品とともにトークを行います。



●講師プロフィール Kentaro Taki 1973年大塚生まれ。武蔵野美術大学大学院映像コース修了。2002年文化庁派遣芸術家研修員、2003年ポーラ美術振興財団の研修員として、ドイツ・カールスルーエ造形専科大でメディアアートを学ぶ。ビデオ作品やインスタレーション、パフォーマンス、執筆活動などの傍ら、展覧会の企画、プロデュースを行う。国内賞にキリンコンテンツアワード1998、福井ビエンナーレ8(00)、フィリップモリスアートアワード(02)、Ongoing(02)、from Scratch(05)、「日本の新進作家 一七人の作家、7つの表現」(07)海外上場など多数。NPO法人ビデオアートセンター東京の運営、早稲田大学山口芸術学校の客員講師、共著に「いま、ここからの映像術」など。